

# 課題曲の中の課題 2011

## 櫛田 朕之扶

課題曲の提出の仕方が、ほぼ定着したと見れば良いのでしょうか。今年も、マーチが2曲とマーチ以外の曲が3曲、全日本吹奏楽コンクールの課題曲になりました。

まず、2曲のマーチですが、昨年と同じように、違ったスタイルの2曲が提出されました。

4分の2で書かれた『マーチ「ライヴリー アヴェニュー」』は、動機の執拗な繰り返しや歯切れの良いリズム設定から言って、「行進曲」という形式を確保した、行進曲らしい行進曲です。内容は、表題のように、爽快な・洒落た・ジャズっぽいコード設定から、ジャズやポピュラー・ミュージック的なコード進行の設定になっていて、1950・60年代のミュージカルの幕開けを楽しんでいるような曲となっています。

もう一方の『南風のマーチ』は、もうこの言葉を何回も使ってきましたが、いわゆる課題曲マーチです。テンポやリズムは行進曲として設定されていますが、内容的には歩くマーチというよりはコンサート・マーチでしょう。一種のムード音楽か、ポピュラー音楽と考えれば良いと思います。内容は、「春が来た」という季節や自然に対する気持ちを描いたもので、これもいつも言っていますように日記のような「私音楽」です。

マーチ以外の曲では、性格・形式・手法の全く違った3つの作品が取り上げられています。

『天国の島』は、日本人的な感性が、脱都会的な方向から描かれた作品です。伝統的な日本音階を上手く組み立てた部分と、西欧音楽的に処理した部分とで、作曲されています。総じて日本音楽です。

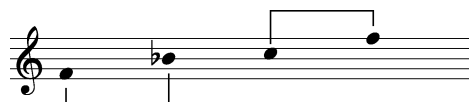
『シャコンヌ S』は、「シャコンヌ」という古典的な形式に、和声の組み立て方や、テンションを加える、といった方法を用いて現代的色彩をほどこした作品です。プロの作曲家の手によるもので、必要十分条件の備わった、隙がない曲となっています。音楽の基礎をしっかりと学習するための、良い教材でもあります。

『「薔薇戦争」より戦場にて』は、シェークスピアの戯曲からインスピレーションされた曲、との解説が作曲者によって書かれています。戯曲の付帯音楽でもないようですので、色々な場面・登場人物・葛藤などを、演奏する側も自由にイメージすれば良いと思います。ただ、あの「薔薇戦争」のドロドロとした人間模様や複雑なストーリーのどこを捉え、描けば良いのか、また、戦場といってもどの場面なのかをイメージするのは、大変苦勞します。これだけの長さの曲において、壮大なドラマを皆さんの表現力で…と言われても、それはちょっとゴメンナサイと言ってしまいたくなります。この曲は、「薔薇戦争」という大きな組曲があって、その中の「戦場」ということでしょうか。私なりに、は、「小規模の交響詩」と捉えることはできますが。

## II 天国の島／佐藤博昭

この曲は、北海道北西部に浮かぶ、周囲 12Km の小さな島「天売島（てうりとう）」での印象を描いた作品だそうです。この島は、JR 留萌駅から車で 1 時間、さらに羽幌港から高速船で 1 時間のところにあり、オロロン鳥など海鳥の繁殖地として、国定公園に指定されています。表題の「天国」は、都会の雑踏や騒音・ストレス…などが微塵も存在しない、そんな天国のようなという意味でしょうか。海に囲まれた豊かな・静かな自然の姿が、強烈な印象として、作曲者の心をずっと捉えているのでしょうか。その作曲者の懐かしむ心・暖かい想いが、十分に伝わってきます。この曲から、島から眺める風景の美しさをイメージすると、確かに一度は訪れてみたくくなります。島の風景は、インターネットの動画サイトで見ることも出来るので、絵画的な演奏表現は可能です。しかし、この曲の演奏で大切なことは、その美しい豊かな自然とともに生活する人の心、自然に対する愛情、といった内面を暖かく表現することではないでしょうか。

曲の核となるのは、最後を締めくくる和音を作り出す、2 つのテトラコルドです。



この 2 つのテトラコルドから作り出される日本音階と、西洋音楽の音階が上手く配置されて、構成されています。



各部分は、これらの音階をもとにした旋律によって、その部分のイメージが創り出されています。この曲の表現では、この旋律の流れ・繋がり・対位（ヨコの繋がり・抑揚など）が重要になってきます。つまり、各部分を構成する旋律の歌わせ方が大きなポイントになります。

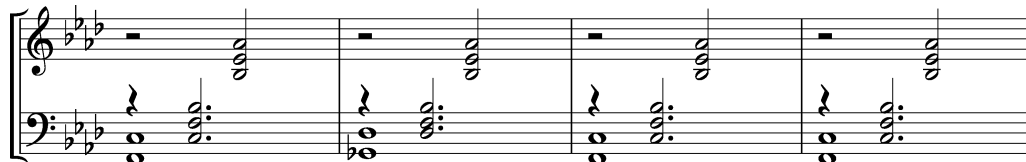
〈序奏〉曲頭から 9 小節目まで

Claves・Bongo と日本音階を積み重ねた響きの上に、日本音階（第 1 種《民謡音階》・第 2 種《都節音階》の混合型）を使った Piccolo の即興的な旋律で幕が上がります。Claves は拍子木であり、Bongos は締太鼓をイメージしていると考えられます。Piccolo の表現は、拍にとらわれない十分に即興的なニュアンスが要求されます。



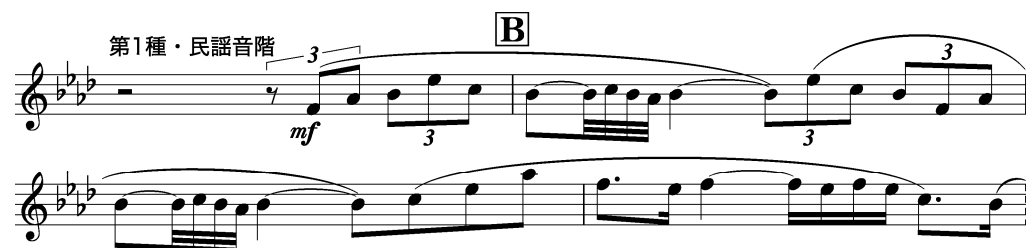
〈第1景〉9・10小節目・【A】【B】

ブラスセクションが作り出す背景は、あくまでも静かに・深く・豊かに、生き物の生命を包み込んでいくようです。音楽的には、和声ではなく、和音による背景（梵鐘の響きにも聞こえます）とでも言うのでしょうか。



【A】の日本音階を奏でる旋律は、長閑な広がりを持ち、その旋律によって癒される時が流れます。2重奏は、楽器の組み合わせや奏者の表現によって、人それぞれの対話を醸し出していきます。

民謡音階による【B】は、島の人々の暖かなまなざしが、決して多くはないのですが、強く注がれているような、あくまでも平和な島の様子を再現しています。



〈第2景 1場〉【C】【D】【E】

今日は島のお祭りなのでしょう、それとも豊作・豊漁を喜んでいるのでしょうか。自然とともに生きる息づかいが伝わってきます。断崖に迫る雄大な海は、人の生命を鼓舞します。

【C】では、細分化され、叩きこまれる生の勢いが感じられ、【D】と【E】では民謡的な（土俗的な）リズムに乗って、民俗的な旋律が力強く歌われます。この部分は、自然短音階で作られています。



和声は、和声法で書かれていますから、その進行にそって、和声が付けられた演奏が要求されます。

また、対位旋律が特徴的な色彩感を持っていますから、この表現にも留意されるべきです。

38小節・カウンターメロディ

〈第2景 2場〉【F】【G】

【F】では、人々を取り囲む自然の風景が感じられます。Saxophone セクションは緑の木々でしょうか。この連続する 7th コードは、和声法的な機能を持つものではなく、コードによって自然の音・動きを表現したものと捉えることができます。Clarinet セクションは、木々の間を抜ける風でしょうか。それとも小鳥達のさえずりでしょうか。Snare Drum の Rim ショットは、あくまで自然の木の音でしょう。

【G】に入って、少し風が強くなって来たようです。波も少し高くなって来たのでしょうか。しかし、鳥や木々・花々など、自然は優しいです。その中でやはり人々も、優しく絆を結びます。ここで奏でられる、自然と人々のともに生きる歌は、日本音階で作られています。

【G】 第1種・民謡音階

〈第3景〉【H】【I】

静かに夕陽が傾き始めました。静かに一日が終わります。都会では殆ど考えられないほどの豊かな自然に包まれた、天国のようなこの島にいる人々の、喜びの歌が聞こえてきます。【D】で出てきたこの曲の主要主題が、全合奏で高らかに歌い上げられます。その大らかな・豊かな・強い心を感じ、この曲の核音を鳴らし、この曲は終わります。

---

2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲分析

## 課題曲の中の課題 2011

監修・著作：櫛田 肤之扶

編集・制作：株式会社ウィンズスコア

配布・公開日：2011 年 5 月 31 日

楽譜引用元：

堀田庸元・佐藤博昭・新実徳英・渡口公康・山口哲人

『2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』全日本吹奏楽連盟、2011 年 2 月 1 日発行

※本書の著作権保有者は、著作者である 櫛田 肤之扶 であり、櫛田 肤之扶 の協力・許諾のもと、  
(株) ウィンズスコアが本書を制作・公開しております。

※本書に掲載されている楽譜の一部は、『2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』からの引用  
であり、全日本吹奏楽コンクール課題曲の権利は、(社) 全日本吹奏楽連盟に帰属します。

※本書の配布・コピー等の利用については、本書の内容・目的を理解した上で、金銭の受け渡し  
が発生しない場合に限り許可いたします。

※本書を使用するの、第三者との紛争・トラブルが発生した場合、著作者・制作者、及び (社)  
全日本吹奏楽連盟は一切責任を負いません。